

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 10 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200020		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい青崎東		
所在地	〒735-0015 広島県安芸郡府中町青崎東7番1-5号 (電話) 082-581-8880		
自己評価作成日	平成23年10月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3493200020&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年11月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・社会資源を活用して、ご入居者様のニーズに合わせ地域で開催されている催し物へ参加したりと外出などによる個別ケアにも取り組んでいる。 また、ボランティア活動について情報収集し、可能な限り受け入れを行っている。 ・ご入居者様の生活暦を把握し、日常生活での生活リハビリ、役割の獲得を意識しており、その人らしい生活の支援に努めている。 ・法人内研修も充実、アドバイザーによる月2回の内部研修を実施しており職員の質の向上に努めている。 ・入居者様の嗜好に合わせた食事の献立(個別献立)、水分補給の工夫などを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>当事業所は、医療法人を母体とし、緊急時や急変時の即応体制・医療機関との緊密な連携体制は安心感に繋がる。又、閑静な住宅地に最新の設備・備品を備え、合理的・機能的に建設された当ホームは、居心地良くゆったりと生活されている。今年度目標として、①「その人らしい生活の維持」その為に自立支援の介護技術の確立、②「職員のケアの統一」ミーティングの徹底と、美味しいものを口から！これこそ元気の源、③「外に出向きアピール」社会資源活用を掲げ、明るく・活気溢れる職員各位の姿と、年齢を感じさせない、若々しい入居者の表情から法人理念に沿ったサービスを提供されている事が伺える。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人は経営理念を各事業所に明示し、また、理念の達成に向けて当事業所のサービス方針及び事業計画を作成しており、計画に基づいてサービスを提供するよう努めている。また、事業所内での会議で理念に対する認識を見失わないようにしている。	法人理念「良質のサービス・幸福な人生・まごころをこめて・向上心」を念頭に、理念の達成に向け、毎年「実践目標」及び各ユニット毎の「重点事業方針」を定め、ユニット会議（1回/月）・責任者会議（3回/年）や日々の確認を通じ、全職員が理念を共有し、実践に繋がられている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の回覧の機能を活用させて頂き、行事への参加案内などの文章を作成して、配布して頂いている。今年度は、町内会主催の夏祭りへの参加や事業所主催の納涼祭に町内会長様を始め、町内会会員様並びに子供会の皆様に来所して頂き、ご入居者様、そして職員との密度の濃い交流の機会となった。	事業所開設当初、「介護教室」を2カ月に1回開催したり、町内会活動に積極的に参加した地道な努力が実り、運営推進会議には町内会長が毎回出席し、積極的に意見を述べている。また近所の子供達が立ち寄り、町内会行事や事業所行事には相互に参加・協力があり、事業所は地域の一員として親密な関係が出来上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事主催と共に、見学していただき地域の方々にグループホームでの生活、認知症ケアについて理解していただけるようにしている。また、電話や訪問頂き介護等に関する相談を受けた際は、誠意を持って対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	本年度より民生委員会の方にもご出席いただき、運営推進会議におけるサービス評価の機能を活用できるよう、会議の課題などの工夫にも努めている。会議におけるご意見等は日常のサービスに反映するよう努めている。	運営推進会議は二カ月に一回、行政担当者・ご家族・町内会長・町の認知症家族会代表等が参加し開催され、会議内容は建設的意見の交換が行われ、充実した内容となっていて、日々のサービスの向上に活かされている。会議内容が詳細に記録されている会議議事録は、不参加の家族への配付が望まれる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	町役場への各種報告書類や届出書は、郵送ではなく訪問して提出し、担当者とのコミュニケーションの確保に努めている。町担当課の皆様には、事業所のPRや町広報誌への掲載などについても協力を頂いている。	更新時及び運営推進会議議事録等の書類は、必ず訪問し手渡し、挨拶をかねて会話を交わす等の平素の地道な努力が功を奏し、気軽に種々の相談・依頼が可能な協力、連携体制が出来上がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内研修を通して、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について理解を深め、身体拘束廃止をきっかけに「よりよいケア」の実現に取り組みと、ケア全体の向上や生活環境の改善に努めている。</p>	<p>アドバイザーを迎え、年に二回「身体拘束をしないケアの実践」研修が実施され、更にミーティングにおいても勉強会を行う等、全職員の徹底理解を図り、鍵をかけずに、利用者の自由な暮らしが支援されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内の研修を実施し、全職員が高齢者虐待防止などはあってはならないとの意識を有しており、日常的に意図して業務に従事している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度の対象となる入居者様がおられるが、全ての職員が、権利擁護に関する制度について認識できているという状況にはない。今後は、ご家族など関係者と連携し必要とする制度利用について支援に努めたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約書、各種同意書を掲示し、具体的に説明するよう努めている。ご入居者及びそのご家族等関係者からの不安や疑問点などは、可能な限り不安等を解消いただけるよう適切な説明に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会については、本年度の報告を含め3月の開催を計画している。ご家族面会時には、ご入居者の状態報告に併せて、ご家族のご意向等をお聞きするよう努めている。契約時に重要事項説明書を掲示し、外部の相談・苦情窓口の説明を行い、職員の情報共有に努めている。</p>	<p>二か月に一回発行される「つばきだより」で日々の暮らしぶりを、写真と担当者のコメントを添えて報告したり、年一回開催される家族会で、家族の意見収集に努め、得られた意見を運営に反映されている。また、家族に連絡する際は、電話とFAXを使い分け、急な電話で家族に心配をかけないきめ細かな配慮もなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に3回の全体会議及び月1回ユニットミーティング開催時に管理者が出席し、職員の意見等を聞いて、必要の都度、運営に反映するよう努めている。 全職員が事業所の運営に対して率直に意見を述べ、意見を具体化する取り組みに努めている。	全体会議（3回/年）、休暇中の職員も参加し開かれる毎月のユニットミーティング等、各種会議に管理者は参加し、職員の意見・提案を聴き運営に反映されている。会議・ミーティングは活発な意見交換がなされ、今までに多くの提案がサービスの向上や職員の待遇改善に活かされてきた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は、統括責任者と密に報告・連絡・相談を行いながら、職員の意見なども聞き、日常的に職員のモチベーションが維持できるよう、個別に話を聞くなどの配慮に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人及び事業所が、それぞれ年間研修企画を作成し、計画的に内部研修を実施している。月に1度は事業所においてスーパーバイザーによる研修も実施されており、事例検討などより具体的な知識・技術に努めている。また、法人が職員個別の研修費を予算化しており、職員が自らの目標を意図した外部研修に出席している。毎年1回、マイスター試験（一次：筆記試験 二次：実技試験）を実施し、スキルアップに対する意欲の維持・向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	町が主催する関係者協議会への出席及び隔月に地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、病院などを訪問して事業所の活動紹介することを通して、信頼関係の構築に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	見学来所時や事前訪問面接時には、事業所の方針など、ご本人及びご家族等関係者の方に安心して頂けるよう、サービス利用に対する心情や意向をしっかりと聞き取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご本人及びご家族等関係者に係る際は、しっかりとお話をお聴きして、ご本人及びご家族の希望や疑問などを受け止め、必要な情報を提供するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	可能な限り本人の情報を聴き取り、ご本人にとって必要とされる支援内容をきちんと把握し、対応するように努めている。また、他のサービス利用も視野に入れて適切な情報提供が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	的確にアセスメントを行い、本人の趣味・嗜好や生活習慣を的確に把握して、日常生活的なかで取り組まれるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話により、日々のご入居者の様子を報告するように努めている。家族からの相談にいつでも対応できるような雰囲気作りに努め、信頼関係を維持できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者に対する接遇、個人情報には十分留意し、利用者の家族・知人・友人等の面会時には、続けて来所したいと感じていただけるよう関係作りに努めている。外出行事の際は、ご本人にとってのなじみの場所を盛り込んでいる。	利用者個々の情報収集に努め、馴染みの人・場所の関係継続の為、馴染のお寺に出かけたり、行きつけだった寿司屋に行くなど個別対応がなされている。また、面会者に対しても接遇に心配りが行き届き、職員の方々の対応が嬉しく、大変訪問し易いとの声も多く聴かれる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者の個性を把握し、リビング内でご入居者間の対話ができるように、席の配置の工夫を行っている。また、生活の中にご入居者様が共に行う作業活動に取り組んでいただくなど、なじみの関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	次の生活場所の支援者に対する適切な情報提供など、必要に応じて可能な限り協力を努める。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の様子観察及び一人ひとりの思いをお聴きして、日常的なケアの中に取り入れて行けるようにしている。希望などの把握が困難な入居者の支援については、職員のなかで情報を共有し、必要の都度協議・検討を実施して適切な支援に努めている。	利用者お一人おひとりの生活歴の把握に努め、職員は日々の行動や発言を詳細に記録し、申し送りノートの記入による情報の共有が徹底されている。また、意向の把握が困難な場合は、家族の意見を参考にしながら、本人本位の支援がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人及びご家族等関係者から、ご本人の生活史や生活環境などの情報をできるだけ詳細にお聴きして、ご入居者の暮らし方にあった生活作りに取り組んでいる。また、アセスメント表に入居前にご家族に生活史や馴染みの環境について、できるだけ詳細に記載いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常の利用者の様子観察を行い、時系列に記録できる書式を使用して、一日のご本人の過ごし方や体調・気分などを記録し、日々の状態を全ての職員が把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン担当制をとっており、担当者は他の職員の意見も合わせて、ご本人の生活課題と適切な支援のあり方を具体的に介護計画書(案)に記載している。担当者が作成した計画書原案は、全ての職員が点検しており、カンファレンスには、全ての職員の意見を盛り込んだ計画書を掲示し、最終確認を実施している。</p>	<p>担当者が原案を作成し、ミーティングで職員各位、医師、看護師の意見も交え介護計画を作成し、家族に了承を得た上で最終的に介護計画を作成し実施されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録には、生活状況やケア内容などを記載し、職員は引継ぎや記録により、ご入居者個別の情報の共有に努めている。それらの情報は担当者が中心となり、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族から、相談などがあつた場合には、必要の都度、法人内外の事業所と連携をとりながら、可能な限り要望にお応えできるように努めている。外出・外泊時には、同伴者への適切な介助方法の伝達や福祉用具の貸し出し等の配慮に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>府中町内での催しには、できるだけ参加させて頂きながら、入居者の方が住み慣れた地域で心身の力が発揮できるように支援させて頂いている。安全対策上、消防・警察等との連携も密に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回法人内のクリニック医師の往診を受けて頂いている。体調に変化が発生した場合は、その都度、訪問看護師を通じて主治医に状態報告しており、指示ある場合は、速やかに受診介助などの対応に努めている。また、ご家族の不安などについては、必要に応じて直接主治医より説明をして頂いている。</p>	<p>週一回、法人内の医師の往診を受け、協力医療機関と連携し、緊急時や急変時適切な医療が受けられるような体制が整えられている。又、家族から要望があれば、希望される医療機関の受診も、家族と職員が相談・協力の上対応されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問看護師が来所し、入居者の状態観察及び医学的処置など、必要に応じて行っている。 ご入居者の体調に変化が生じた場合は、休日・夜間を問わず看護師に報告・相談し、必要の都度、受診介助などの対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者には、可能な限り面会して病院スタッフからの情報収集に努めている。 入院予定期間が急遽早まるなどの状況にも、柔軟に対応するよう努めている。 また、協力医療機関以外の相談員、病棟師長などスタッフとの連携も大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期のあり方について、ご入居契約時に意向を確認するように努めている。終末期の意向を入居時に確認するための意向確認書を導入し、意向確認を始めた。 本人及びその家族が終末期に事業所での看取りを希望される場合は、家族に事業所の機能等を十分に説明し、必要に応じて、指針に基づいて適切に対応するよう計画している。	事業所開設3年目を迎え、過去及び現在は、該当するケースが無いが、入居時及びその時期を迎えた時は「意向確認書」に準じて、事業所で出来得る最大限の支援を行う事を、職員全員で共有されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習の研修に参加するなど、事故発生時に備えて、職員はスキルの向上に努めている。また、日常的に訪問看護師を中心に、応急手当や初期対応について指導を受けて、日々の入居者の健康管理に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、年2回の消防訓練を企画し、今年度は9月に1回目の訓練を行い府中町消防局の職員の協力も頂き、消火器訓練を実施している。災害などの対策についても日々地域の方々との連携をとりながら支援を頂くようにしている。 また、地域での火災訓練にも参加させて頂いている。	防災マニュアルを作成し、年二回の防災訓練、町内会の年一回の火災訓練等を実施し、災害対策が講じられ、防火設備、機器類も整備されている。	職員と町内の人々や、消防を交えた訓練は行われているものの、先ず職員間で、夜間の災害の発生、連絡に要する時間、初動行動のチェック等、災害発生を細かく想定し、実際に訓練を重ね、「いざ」という時スムーズに行動に移れるよう、少しずつ訓練を重ねられる事を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者への尊厳に配慮した接遇には、フロアーミーティングなどで再確認することで、人権を尊重したケアができるように努めている。 実際のケアの場面でも、入浴・排泄など同性介助を行っている。 また、面会者にはご入居者様の関係性を把握した上、個人情報には十分留意して接している。	利用者の人格尊重、人権保護は勿論、人生の先輩として敬い、特に言葉づかいには十分配慮している。職員は介護者として支援するという姿勢ではなく、温かく寄り添い、必要に応じ、手助けをする姿が伺える。又、個人情報の取り扱いには十分配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段、なかなか言葉で表現できないご入居者様の対応として、買い物や入浴での個別ケアの場面で本人様が思いや、希望が話せるように話しやすい場作りに工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の業務優先ではなく、ご利用者の生活リズムに合わせて、必要とされることを適切に支援させて頂くように努めている。 入居者のその人らしさを的確に把握して、より適切なケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月1回訪問理・美容サービス業者に来所頂き、ご本人の希望に応じて、カット・毛染め・パーマなどの対応を頂いている。また、居室で訪問美容の方と入居者様で話をする機会のあることでご入居者様から髪型の要望などが伺える。また、その人らしいおしゃれができるように服装、ストール着用などにも配慮する。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご入居者様の嗜好に配慮して献立を作成し、食材は近隣のスーパーで入居者と共に購入している。ご入居者様の身体状況、その日の状態（疲労）などにも配慮しながら、食材の皮むき、切る作業、盛り付け作業などを行っている。 最近では、洗浄した食器拭き作業が定着している。	利用者の嗜好を伺いながら、毎日食材を近隣のスーパーで購入し、生活リハビリを兼ねて、男性にも食材の調理を手伝って貰っている。また、盛り付け・配膳・片付け等、職員と利用者が共に行き、楽しく語り合いながら食事をされ、食後利用者が「ああ、美味しかった。」との笑顔が印象的であった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量が少なかった場合、本人様が食べやすい食材、好物などを提供している。また、水分量が少ない方には果物、ゼリー、好みの飲み物の提供にて、水分摂取できるように努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアについては、徹底している。また、義歯使用のご入居者には定期的にポリドントを使用し、義歯洗浄に努めている。出来る限り自身で磨いていただいているが、磨き残しも見られるため、職員が支援する場面もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツはできるだけ使用しないことを意図してケアに努めている。ご入居者様の排泄パターンの把握し、トイレでの排泄に努力している。 現在、数名の方がガリハビリパンツから安心布パンツ使用にて対応している。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、自主的な排泄意欲が促せるよう工夫をこらし、食材や水分摂取、おやつ等にも配慮がなされ、自立に向けた支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防として、食物繊維の多い寒天ゼリーと朝食にはオリゴ糖入りのバナナヨーグルトの提供をしている。 また、身体を動かすことによる腸の活性化を意図して、体操やレクリエーションの導入をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の場合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	ご入居者の習慣や意向を把握し、その日毎にご入居者の意向を伺い、体調や気分に応じて配慮して入浴して頂いている。失禁などがあれば、速やかに入浴して頂いている。入浴拒否が見られたり、体調不良などにより、入浴困難と判断した場合は、清拭や部分浴に努めている。	基本的には、二日に一回の入浴となっているが、利用者お一人おひとりの状況に応じ、柔軟に対応されている。入浴拒否があった場合は、時間や対応職員を変更したり、種々工夫をこらした入浴支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご入居者様の居室には、これまで使用されていたなじみの家具が設置されており安心して休まれる環境になっている。リビングでは、いつでも休息できるようにソファを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を確実にケースファイルに綴り、全ての職員が記載事項を把握するように努めている。内服薬の変更があった場合、職員が把握できるように記録に記載し、効能についても理解できるようにしている。また、症状など変化があれば医師、看護師に報告し、その都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	それぞれにあった役割の提供として、家事手伝いや洗濯たたみなどがある。楽しみでは、身体を動かすことが好きな方は体操、外出することが好きな方は散歩、また時間ができればドライブ等、気分転換を図る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	普段、行けない場所には外出行事として、時には家族様と一緒にいられることもある。その日の希望に添って、戸外への外出については出来るだけ出かけられるように支援している。	毎日の買い物は、職員と利用者が共に出かけ、時候・体調・その日の気分により近隣の公園を散歩し、地域の方々との交流を図ったり、時にはドライブや外出行事を企画したりして、日常的に外出支援がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を使うことに関しては、職員が同行のもと、使用できるように支援している。買い物時にレジでの支払いではご利用者様からお金を渡していただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご入居者宛に届いたはがきなど、ご本人に伝わるようにきちんと朗読させたり、家族の方々を通して交流ができるようにしている。 また、電話などに関しては要望があればいつでも連絡ができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間において、季節に応じて模様替えを行い月や日にちが分かるようにカレンダーや季節感のある絵や置き物を飾っている。	開放的な居間には、6個の台形テーブル（組み合わせにより様々に変化する）がユニークで、体型に応じて使い勝手が良く、利用者の方々がゆったりと寛がれている様子が伺え、4カ所のトイレ、なかには浴室と繋がる等、共用空間は機能的で居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを設置し、ご入居者のくつろげる空間の確保に努めている。 安全に配慮した上で、机のレイアウト、気の合ったご入居者と談話できるように席の配置にも工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、これまで生活で使用されてきた家具、なじみの物、好みのものを使用していただき、ご本人様が落ち着ける空間作りを行っている。	清潔感あふれる各居室は、空調機器・体格に応じて高さを調節可能なベッドは備え付けられているが、ベッドの持ち込めや使い慣れた馴染みの物（整理ダンス、好みの絵画、仏壇、床マット果ては表札等）が持ち込まれ個性豊かに、居心地良く過ごせる生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は段差がなく、手すりがあり、安全に歩行・移動ができるようになっている。手すりがあることにより、握る力や移動することでの下肢筋力の維持、向上に繋がっている。 転倒リスクの高い方の居室には、床面にマットを設置するなどの環境整備に努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい青崎東

作成日 平成23年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員は町内住民を交えた訓練は行われているが、現在の訓練だけでは発生した時、スムーズな対応が困難と思われる。	災害発生を細かく想定し実際に訓練を重ね、「いざ」という時スムーズに行動できるようにする。	年2回の消防訓練の実施だけではなく、災害などの対策についても地域との方々と連携を図り町内と訓練の実施の定着を図る。	10ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。